

令和5年度

ヨコハマ市民まち普請事業

1次コンテスト 整備提案集

日時：令和5年7月9日(日) 10:30~17:00
会場：横浜市役所アトリウム

最大
500万円
助成

私たちのまちを私たちでつくる

きっとまちが好きになる



YouTubeチャンネル「ヨコハマ市民まち普請事業」からライブ配信

視聴は
こちらから



事務局 横浜市都市整備局 地域まちづくり課
横浜市住宅供給公社
認定 NPO 法人 市民セクターよこはま

■目次■

1. ヨコハマ市民まち普請事業とは	1
2. ヨコハマ市民まち普請事業部会委員名簿、委員紹介	2
3. 令和5年度のスケジュール	7
4. 令和5年度ヨコハマ市民まち普請事業1次コンテスト	
(1) 1次コンテストプログラム	8
(2) 1次コンテスト審査基準	9
(3) 1次コンテストの投票方法・選考方法	9
5. 1次コンテスト提案一覧	10
(1) ブルーベリーの丘 子どもと親が集い防災を考える会	11
(2) キノコみらいハウス設置委員会	17
(3) 弘明寺リビングラボ	22
(4) KSG master	27
(5) えだきん×夢叶きゃらばん	33
(6) HOMMOKU もくりプロジェクト実行委員会	39

1. ヨコハマ市民まち普請事業とは

「ヨコハマ市民まち普請事業」では、市民のみなさんが主体となって行う地域の課題解決や魅力向上のための施設（ハード）整備を伴うまちづくりに対して横浜市が支援・助成を行うことで、地域に合ったまちづくりが実現することを目指しています。

市民のみなさんによるアイデア検討やコンテストへのチャレンジ、整備への労力提供や整備後の施設の維持管理、活用・運営などの機会を通じて、地域コミュニティが活性化し、地域まちづくりの輪が広まることで、横浜の魅力を一層向上させていくことを目的としています。今年度から「子育てプラス」として、次世代を共に育む地域づくりの推進のため、選考件数や支援体制を拡充しています！

※地域まちづくり・・・身近な地域の魅力づくりや課題解決に向けた取組のことです。

※まち普請・・・ 「普請（ふしん）」は「普く請う（あまねくこう）」とも読み、「力を合わせて作業に従事すること」という意味が含まれています。
「公共」は行政によってのみ担われるものではなく、特に地域に根ざした身近な課題への対応などに市民のみなさんが主体的に関わることで、参加する人や地域に暮らす人々の満足度を高めることにつながっていきます。
「まち普請」には、市民のみなさんに身近な「まち」に「普請」の輪を広げていきたいという願いが込められています。

<支援内容>

● 1次コンテストを通過した提案グループへの支援

- 30万円を限度に活動助成金を交付します。
(市の予算の範囲内で助成します。)
- 活動助成金の対象は、主にまちづくりコーディネーター（まちづくりの専門家）など技術面での協力者への謝金や用紙等事務用品費、印刷費等です。
- 提案内容の整理等をアドバイスしてくれるまちづくりの専門家を紹介します。
- 2次コンテストに向けて提案の実現性を高めるため、提案内容の整理や関係機関との協議・調整などを地域まちづくり課職員が支援します。

● 2次コンテストを通過した提案グループへの支援

- 50万～500万円を限度に整備助成金を交付します。
(市の予算の範囲内で助成します。)
- 対象経費は、設計費、工事費、工事監理費、活動経費です。
- 整備内容の整理や関係機関との協議・調整などを、整備が完了するまで地域まちづくり課職員が支援します。

2. 審査員名簿

(ヨコハマ市民まち普請事業部会 委員名簿)

	氏 名	現 職
審査員長 (部会長)	すぎさき かずひさ 杉崎 和久	法政大学法学部教授 (都市計画、まちづくり)
審査員 (部会委員)	あさひな ゆり 朝比奈 ゆり	東京ボランティア・市民活動センター専門員 (市民活動支援、みどり環境)
	うえまつ まみこ 植松 満美子	松ヶ丘自治会会長 (まちづくり、市民活動)
	かわはら すすむ 川原 晋	東京都立大学都市環境学部教授 (市民事業、観光まちづくり、都市デザイン)
	ごとう ちかこ 後藤 智香子	東京都市大学環境学部准教授 (まちづくり、住環境、こども環境)
	ひご きみこ 肥後 貴美子	市民委員 (公募)
	まつむら まさはる 松村 正治	NPO 法人よこはま里山研究所理事長 (市民協働、環境社会学)
	やまだ あきこ 山田 顕子	市民委員 (公募)

(五十音順、敬称略)



●杉崎 和久（すぎさき かずひさ）
法政大学法学部／大学院公共政策研究科教授

東京理科大学理工学部建築学科、同大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了。東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程単位取得退学。（財）練馬区都市整備公社練馬まちづくりセンター専門研究員、（財）京都市景観・まちづくりセンターまちづくりコーディネーターを経て、現職。

学生のときから、商店街のまちづくりのお手伝いをしたり、まちづくりNPOに参加していました。このときには、まち普請事業と同じような公募型助成金の申請書を書くこともありました（勝率低かったですが）。

大学院を出てからは、東京都練馬区や京都市でまちづくり活動を応援する仕事をし、その中で公募型助成金の事務局として、制度設計や運営、応募される団体からの相談を受けていました。

現在でも、まち普請事業をはじめとして、市民のみなさんの思いが形になっていく、その過程でご縁が広がっていく取組に関心を持ち、お手伝いをしています。



●朝比奈 ゆり（あさひな ゆり）
東京ボランティア・市民活動センター専門員

私のまちづくりとの関わりは公園づくりからです。地域の方が自分の居場所と思えるような公園をつくらうと設計者として計画段階から地域の人たちと一緒に考えたり、手作り工事に汗を流す機会を大事にしてきました。その経験から、地域に住んでいるからこそその問題意識や夢を持った

人たちがまちづくりに参加することの可能性を実感し、その後は世田谷区のまちづくりセンター（当時）職員として地域のみなさんの活動を応援し、地域の様々な人をつないでまちづくりを推進する仕事に携わりました。現在は千葉外房の里山でのんびり？と暮らしています。東京ボランティア・市民活動センター専門員のほか、武蔵野美術大学通信教育課程社会形成デザイン講師を務めています。



●植松 満美子（うえまつ まみこ）
松ヶ丘自治会会長

青少年指導員、主任児童委員を務め、子ども達や学校、子育て支援などに関わる様々な地域活動に携わってきました。私の住む松ヶ丘地区は、横浜駅にほど近い丘陵地。国道1号線から一步入ると急な坂道や細い道が多く、通学、通勤、買い物に行くのにも坂の上り下りは欠かせません。また、指定されている地域防災拠点や広域避難場所への避難も、高齢の方や障害をお持ちの方には難しいことと、東日本大震災を経て痛感させられました。そこで自治会では、いっとき避難場所として自治会館の活用に思い至り、防災機能と備蓄品の充実を図るため自治会館内に防災備蓄庫を設置することを決定。これを「まち普請事業」の助成を得て平成25年度、完成させることが出来ました。私はこの活動に深く関わる機会を得て、その後自治会内に立ち上げた「松ヶ丘防災に強い町をつくる会」の活動を通して、「松ヶ丘まちづくりプラン」の策定に努め、松ヶ丘町内の防災面の強化に関わってきました。現在、松ヶ丘自治会会長を務める傍ら、地区連合自治会、地域防災拠点の運営委員会とも連携しながら、住み心地のよい地域づくりに普請しています。



●川原 晋（かわはら すすむ）
東京都立大学都市環境学部教授

専門は観光まちづくり、都市・地域デザイン。観光地再生、まちづくり市民事業、市民参加まちづくり、公民連携による公共空間活用などの理論と実践に取り組んでいます。

前職では、都市計画コンサルタントや建築設計者として、横浜市や区の都市計画マスタープランや市民利用施設の検討ワークショップ等の業務や、福祉施設等の設計に携わりました。

藤沢市都市景観アドバイザー、八王子市景観審議会委員、横浜市地域まちづくり推進委員会表彰部会委員（横浜・人・まち・デザイン賞）、地元小学校のPTA会長などを経験。趣味はガーデニング。



●後藤 智香子 (ごとう ちかこ)
東京都市大学環境学部環境創生学科
都市環境分野准教授

東京理科大学理工学部建築学科卒業、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修士課程修了、同専攻博士課程修了・博士（工学）。柏の葉アーバンデザインセンターディレクター、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻特任助教、同大学先端科学技術研究センター特任講師などを経て2023年より現職。

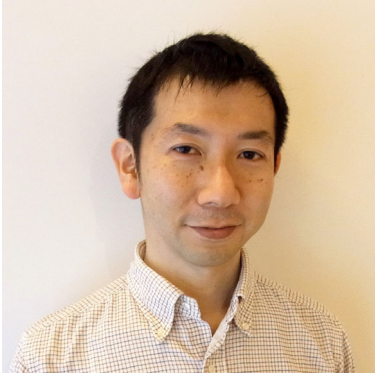
学生時代から、住民主体による私有地を活用したまちづくりやそれを支える制度について研究してきました。具体的には、世田谷区の地域共生のいえづくり支援事業制度などについて研究をし、またそのご縁で地域共生のいえの一つ、「岡さんのいえ TOMO」の運営に10年以上携わっています。また最近は、こども環境についても都市計画・まちづくりの観点から研究を進めており、特に保育園（こども施設）と地域との空間的・社会的な関わりについて研究しています。



●肥後 貴美子 (ひご きみこ)
ヨコハマ市民まち普請事業部会市民委員

武蔵野美術大学卒、グラフィックデザイナー。30歳を目前に「エコツーリズム」と出会ったことから、環境に携わる分野に邁進。日本各地・フィジー諸島でのエコツーリズム開発やビジターセンター等の展示施設に関わりながら、自然やその土地の文化、そこに生きる人の魅力を伝えることに努めています。

東日本大震災後、自ら住む地域について何も知らないことを猛省し、地域でのエネルギーやコミュニティを考え、実践する市民活動を開始しました。コミュニティ農園での循環型農業や養蜂などを通じて、自然と寄り添う暮らしの心地よさと豊かさを楽しんでいます。



●松村 正治（まつむら まさはる）
NPO 法人よこはま里山研究所理事長

1999 年から多摩丘陵の里山保全運動にかかわり、2005 年から現在まで NPO 法人よこはま里山研究所(NORA)理事長。まちの近くで里山とかかわる暮らし、里山をいかす仕事づくりをすすめています。ほかに、モリダス代表、NPO 法人森づくりフォーラム理事など。

NPO での市民協働や地元町会長の経験をもとに、神奈川県ボランティア活動推進基金幹事会、横浜市市民協働推進委員会なども務めてきました。

一方、2020 年に大学専任教員を退職後、独立研究者へ。専門は、環境社会学、公共社会学。調査フィールドは、多摩丘陵、八重山、五島・対馬ほか。大学では、フィールド・スタディやサービス・ラーニング等の経験学習プログラムも担当しました。現在は4つの大学の兼任講師、市民向け環境講座のコーディネーターを務めています。



●山田 顕子（やまだ あきこ）
ヨコハマ市民まち普請事業部会市民委員

こどもが1歳の時に横浜市に転入後、保育園難民となっていたところ、団体を立ち上げようとしている代表と出会い、2012年から活動に加わりました。立ち上げ時の手探りの頃より、NPO 法人化や指定・認定の認証取得に向けて等、その時々で事務局体制を整えることに務めています。2014年度には、

ヨコハマ市民まち普請事業に挑戦、整備対象団体となり「こまちカフェ」の立ち上げに大きく係わりました。同時に、2014年まで年刊誌「とつかの子育て情報冊子『こまちparaす』」の編集長を務め3冊刊行、2015・2020年には戸塚区の発行する『とつか子育て応援ガイドブック まっぴい』の企画・編集に参加。2022年度は日本財団の助成による「社会的孤立を防ぐ『地域コミュニティ構築人材』の育成と展開事業」のマネジメントを担当、心地よい関わりのある居場所がまちに増えることを目指して活動しています。

3. ヨコハマ市民まち普請事業 令和5年度スケジュール

整備提案の募集 R5年4月3日(月)～R5年5月31日(水)



1次コンテスト R5年7月9日(日)

本日!!



2次コンテスト対象提案の決定

現地見学会(令和4年度整備箇所) R5年8月22日(火)午後



2次コンテスト対象提案 活動懇談会 R5年9月23日(土・祝)



2次コンテスト対象提案 現地視察 R5年10月29日(日)



2次コンテスト R6年1月28日(日)

整備対象提案の決定!

4. (1) 令和5年度 1次コンテストプログラム

☆ 10時30分～10時55分

- 開会
- 応援企業の紹介
- 審査員の紹介
- コンテストの進行説明

☆ 10時55分～11時55分

- 整備提案の発表等（1グループあたり6分）

☆ 11時55分～12時20分

- 審査員による情報収集タイムに向けたポイント整理

☆ 12時30分～13時05分

- 情報収集タイム

☆ 13時05分～14時25分

- 休憩（審査員間で情報共有）

☆ 14時25分～16時20分（YouTube配信終了）

- 審査方法の説明
- 公開議論・質疑
- 公開投票及び結果発表
- 講評

☆ 16時20分～16時55分

- 提案グループへの事務連絡、アンケート回答
- 交流タイム

☆ 17時00分

- 閉会

※当日の進行状況により、変更する場合がありますのでご了承ください。

4. (2) 1次コンテスト審査基準

1 創意工夫

- ・住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデアやユニークさ

2 意欲

- ・自ら主体となって整備の推進に取り組む意欲
- ・整備の実現に向けて、住民参加や提案の精度を高める活動に取り組む意欲

3 公共性

- ・地域の課題やニーズの的確な把握、地域への貢献度

4. (3) 1次コンテストの投票方法・選考方法

1 投票方法

提案ごとに「2票」「1票」「0票」の3段階で評価します。

2次コンテストの対象として「特に推薦する」	2票
2次コンテストの対象として「推薦する」	1票
「今後の取組に期待したい」	0票

2 選考方法

- ・ 過半数の審査員から得票したものを 2次コンテストの対象提案として選考します。
- ・ 得票数が同点の場合は、投票した委員の多い提案が上位となります。

5. 1次コンテスト提案一覧

発表順	区	提案グループ名	整備提案名	ページ
1	金沢	ブルーベリーの丘 子どもと親が集い防災を考える会	知ることで安心 子どもの遊び場と防災	11
2	青葉	キノコみらいハウス設置委員会	青葉台公園の多世代交流・多文化共生の拠点作り	17
3	南	弘明寺リビングラボ	データを活用したまちづくり	22
4	南	KSG master	誰もが百点満点！自分らしさを表現できる居場所作り	27
5	都筑	えだきん×夢叶きゃらばん	リアルとバーチャルで夢を応援えだきんメタワールド	33
6	中	HOMMOKUもくりプロジェクト実行委員会	HOMMOKUもくりプロジェクト	39

ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	ブルーベリーの丘 子どもと親が集い防災を考える会
現在の主な活動 内容・活動実績	子育てサロンびよびよキッズ部屋遊び(月2回)・とことこ外遊び(年9回)。 ふれあいサロンや食事会(月2回)。おもちゃ病院(年6回)。登下校の見守り 拠点(開校時)。自主防災や拠点連携避難訓練拠点(年3回)と防災フェア啓発 活動(年1回)。協力団体・行事・サークル活動。高学年向け防災教育。低学 年“町探検に行こう”自治会の役割説明(会館利用率65%：休館日除く)。
提案場所	金沢区 高舟台一丁目
提案名 (25字以内)	知ることで安心 子どもの遊び場と防災
提案する施設 (どのような施設 の提案ですか)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊び場に隣接する斜面(法面)に”つづら折り遊歩道”を整備する。 ・高精度の傾斜センサーと震動センサーを法面等に設置、バス停から見える場 所に簡易モニターを設置、遊歩道に看板を設置する。(参照：その他資料) ・災害時にも活用できるかまどベンチや外水栓を遊歩道に造る。 ・法面補強を兼ねブルーベリーの木を植樹する。沢ガニが生息している場所を ビオトープとして整備する。 ・盛土の造成史(野島層等)をベンチに埋込み地形や歴史を学ぶ。 ・“つづら折り遊歩道”は現状との調和や昆虫の生息を考慮し、法面の簡易補 強ができるものとする。 整備費用の概算額：約 500万円
活用イメージ (提案する施設で どのようなことを 行いますか)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが“つづら折り遊歩道”を散策し、ブルーベリーの林を抜け、動 物や昆虫、沢ガニに触れるなど、遊びを楽しめるようにする。併せて法面の 傾斜・振動センサーを確認し遊びの中から「安全」を学ぶ。 ・未就学児童が集うびよびよキッズでは、自然と防災を身近に感じる遊びの中 から学びとお友達づくりで安心を知る。 ・造成地の盛土・擁壁等インフラの歴史、IoT技術から災害リスクを知る。防 災・危険意識を肌感覚で気付きの大切さを学ぶ。(参照：その他資料) ・豪雨時や地震時地域住民に定量的なセンサー指標を提供し地域の住民が安心 して集い暮せるようにする。避難判断(遊歩道の利用判断)にも活用する。 ・住民参加のワークショップを地質や地盤の有識者と協力して実施する。 ・分散避難場所、地域交流の場として自治会館やかまどベンチを活用する。
提案の背景(なぜ提案をするの か、地域のニーズ や課題、生かした い地域の魅力等に 触れて説明してく ださい)	<ul style="list-style-type: none"> ・盛土宅地造成から大凡60年が経過する。宅地擁壁は“経過観察を行い必要に 応じて対策を望む”との報告を受けた(地盤品質判定士会)。 ・公的な地域防災拠点は高舟台小学校、5町内会で対象人員数7千人弱であ る。金沢区の防災計画(震災対策)では30年以内に震度6弱を想定、区内 14%の建物被害、当該地区では約400世帯相当の倒壊が予想される。命を繋 ぐ分散避難場所の確保が急務である。 ・自治会館は土砂災害警戒区域に隣接しており、分散避難場所の活用は安全性 の担保が求められる。センサーを設置し定量的指標で安全度を判断する。 (参照：その他資料) ・子育てサロン、お食事会、サークル活動、祭りやイベント、小学生向け防災

	<p>教育等が盛んで自治会館は地域住民の憩いの場でもある。また、横浜市や金沢区の委嘱委員の打合せ場所、地域活動や防災訓練拠点、協力団体の活動や会員間の会合場所、登下校の見守り（14名登録）拠点でも在る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高舟台の東側にある自治会館は、会館当番が常駐しだれでも来館することができる。また、トイレや水道も自由に使うこともできる。ウォーキングや犬の散歩中に休憩をしたり、子供達が学校の帰りに遊びに来たりと、地域の中でちょっとした利用がされている。一方で、高舟台の東側には公園がなく、あるのは小さなこどもの遊び場だけである。（参照：位置図） ・私的な自主防災組織訓練の実績を踏まえ災害時にも自治会館を活用する方向に結び付けたい。
<p>目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当団地の14歳以下の割合は微増している。子ども達が自由に戯れ遊び集うブルーベリーの丘で安心を知ることによって防災を学びリスク管理の大切さを幼少期から育んで欲しい。 ・自治会館に集まる遊ぶ学ぶ身近な場所を引き続き維持する。多様性を理解し受容力を高め自治会活動に興味を示し、幼児期から身近な地域活動と繋がりを大切に考える地域社会を築いて行きたい。 ・親世代と子世代が同じ地域で暮らす（スープが冷めない）街づくり。子世代が独立し家庭をこの地域に求めたいと思える街、循環社会の構築。地域に自然に溶け込み相互扶助と声掛けでみんなが助け合える街を目指したい。
<p>整備時の協働 （つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・斜面センサーや振動モニタリングシステムの構築は、地盤コンサルタントの中央開発の協力を得る。法面や擁壁評価は地盤品質判定士会にアドバイスを求める。 ・つづら折り遊歩道は、近隣地域での崩壊事例を捉えた実績を活用、斜面診断～計器設置、管理基準値設定を踏まえ整備する。 ・遊歩道の一部整備は住民参加で行う。土木工事の部位整備は土質の野島層を熟知した地元造園業や土木業に声掛けを行い整備する。 ・高舟台は56年の歴史と1700世帯が暮らす街。近隣町会とも繋がりが深く子供達を始めお祭りやどんど焼きは世帯以上の参加交流がある。近隣町会との接点や地域資源を将来に亘って繋ぐ支える立場として、今ある地域資源を最大限活用し効率的に効果的に具現化に向け仲間を進めていきたい。
<p>運営時の協働 （運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングは、常時10分間隔で実施、事前に設定した管理基準値を超えた場合は、自治会関係者らに警報メールを発信する。（参照：その他資料） ・定期的に有識者と協力してワークショップを開催、斜面の状況と災害が発生した場合の避難の方法を確認する。併せて子供向けの防災教育を実施する。 ・日常の管理は自治会、モニタリング設備の維持管理は中央開発と連携する。 ・災害時のかまどベンチ等の活用は自主防災組織訓練で定期的実施する。 ・法面や植栽管理は、従来通り住民参加型で行なう。 ・つづら折り遊歩道は会館施設の利用申込とするか自由利用とするかは、利用者へのアンケートで検討する。
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・監視システムはリアルタイムで行なうが常駐による監視は考えていない。リアルタイム監視は、携帯電話回線を利用して現地の計測機器から自動的に伝送（標準10分間隔）する。データはグラフ化しインターネットで配信する。警戒レベルを経過した履歴は常時監視することを可能とする。

注4) 「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

整備場所の地権者等注5）への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
高舟台自治会	提案することについては了承する。

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- ① 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- ② 記載内容に個人情報含まれていません。

位置図

北

西

東

南



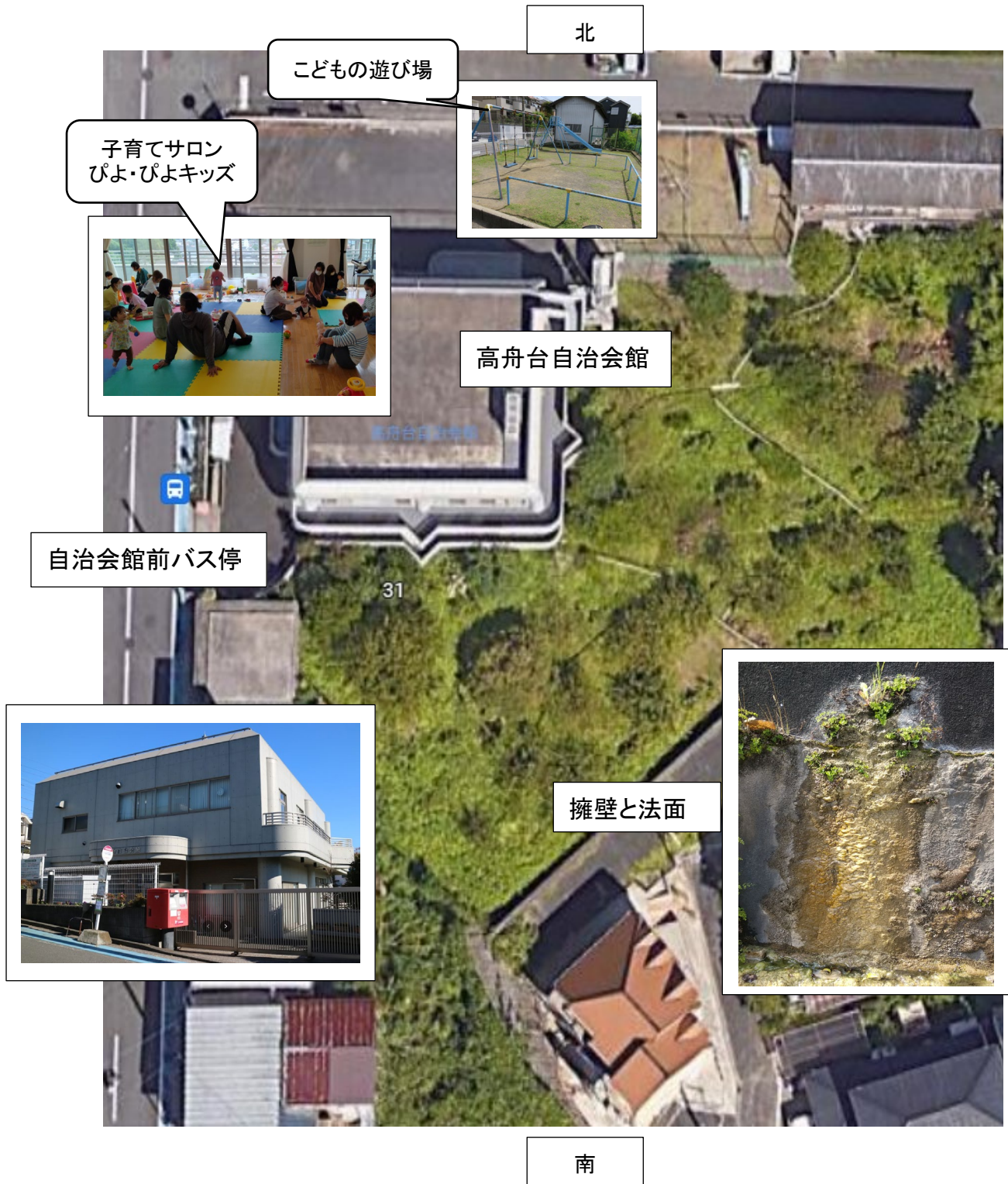
高舟台小学校

提案場所
(高舟台自治会館の法地ほか)

最短の公園
東の自治会館からまで12分850m

出展：区民マップ

現況写真



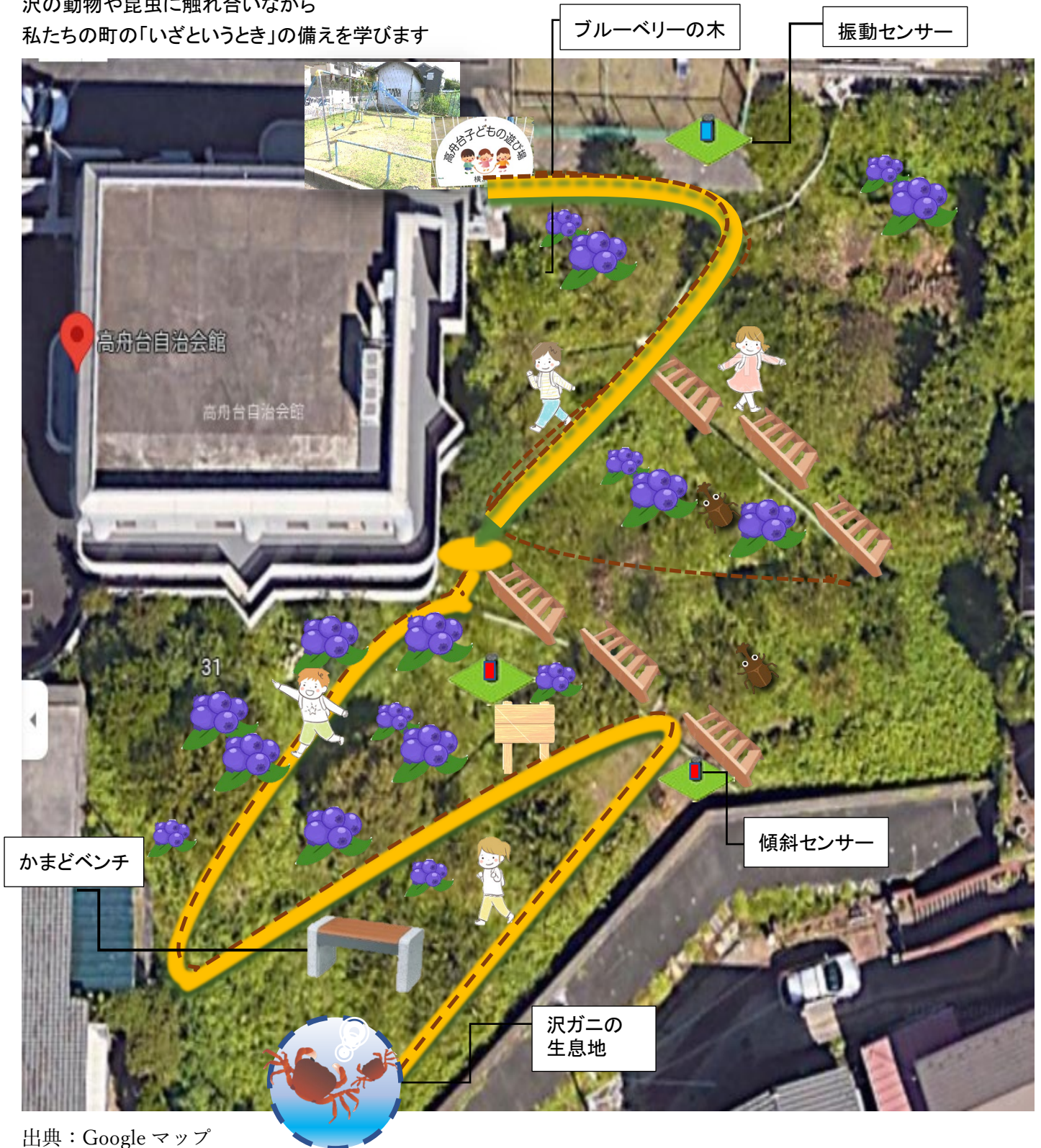
出展: Google マップ

知ることで安心 子どもの遊び場と防災

季節の緑を眺めながら楽しくお散歩して
近所の地形を知って、子供たちを見守っている
防災システムに興味を持ってもらいます。
ブルーベリーの林をくぐり
沢の動物や昆虫に触れ合いながら
私たちの町の「いざというとき」の備えを学びます

活用イメージ図

ブルーベリーの丘



出典：Google マップ

その他資料

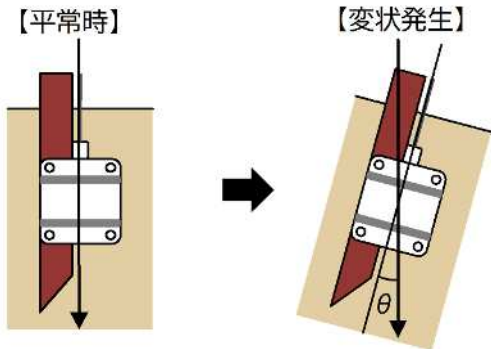
【傾斜センサー】

●計測目的: 斜面災害の予兆は目視では分からない「**極めて小さな動き**」のため計測機器を用いて**地盤の傾斜角度**を定量的にリアルタイムで測定する。



【傾斜センサーの測定原理】

●傾斜角度の**変化**を見る



【モニター表示のイメージ】

●パソコンと繋げてモニタリング状況をリアルタイムで表示



【避難の目安の例】



天気, キキクルの情報, 傾斜センサーをチェック

情報交換, 避難準備

避難開始



あらかじめ決めておいた避難のタイミング

警報メール配信

ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	キノコみらいハウス設置委員会
現在の主な活動 内容・活動実績	青葉台1丁目自治会として、子供の見守り活動、防災訓練、焼き芋会など行事。公園愛護会として、青葉台公園の週1回の清掃、花植え活動。NPOとボランティアによる、月1回の子ども食堂開催。AS輪組の学校トイレアート活動。
提案場所	青葉区青葉台1丁目
提案名 (25字以内)	青葉台公園の多世代交流・多文化共生の拠点作り
提案する施設（どのような施設の提案ですか）	青葉台公園敷地の一部に、建物面積30㎡の集会所（兼休憩所）を建設整備し、公園を訪れる皆さんが気軽に利用したいと思えるトイレ、自然に囲まれたオープンスペースで多世代・多文化交流できる（フリートークできる）テラスを併設したい。名称：「キノコみらいハウス」 整備費用の概算額：約500万円
活用イメージ（提案する施設でどのようなことを行いますか）	①あらゆる世代が気楽に立ち寄れるサロン（おしゃべり会）をつくる。子連れの方やご高齢者、移動支援を必要とする方の送迎システムを独自に構築する。②地震対策本部として住民や近隣で働く人等の「いっとき避難所」として活用する。③小・中学生の放課後支援（自習室として開放）④多世代交流：高齢者のボランティアによる学習支援、不登校児童の学習支援及び日本の伝統的な遊び（竹とんぼや紙飛行機等）を地域の子ども達に継承していく。⑤公園を訪れた方へのトイレ利用、子連れの方等の休憩所、おむつ替え等。⑥外国人のための交流場所（日本語教室、困ったときの相談室等）⑦環境教育とペロブスカイト太陽電池普及啓発の拠点、地元農家による食と農の講座による地産地消の推進（⑦はSDGsの拠点）
提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください）	①子どもたちの学習室が不足し、居場所に困っている。青葉台1丁目には地区センター、コミュニティハウス等の公共施設もない。②単身世帯・高齢者のみの世帯が増え、他者との交流が減り、外出機会も減少している。③多世代交流、多文化交流できる施設がなく、外国人との交流の場や外国人の暮らしを支える場がない。④伝統文化の継承の場がない。継承の場を通じて、多世代交流や高齢者活躍、次世代育成につながる。⑤青葉台駅では桐蔭横浜大学の「ペロブスカイト太陽電池」実証実験が行われ、地域に次世代エネルギーへの関心が高まっている。「エネルギー教育」推進の場として期待できる。「地産地消」推進のきっかけづくり（SDGs拠点）⑥公園にトイレがなく困っている声があるため、トイレ設置。
目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にした	これまで青葉台1丁目課題としてきた、地域住民の顔の見える関係性の構築、子ども達から高齢者、国籍関係なく、孤立しないコミュニティの構築。キノコハウスが地域住民にとって、「安心して過ごせる居場所」となり、さらには住民主体でキノコハウスを活用した、自主イベントが盛んに行われる

いと考えますか)	ような機運が醸成される。さらに、青葉台1丁目（周辺地域）に関わる、学校や企業、団体もつながりを持って、そこで暮らす人、働く人、そこが好きな人たちが、共に地域コミュニティを創り上げていく。そこに住みたい人、住みたいと思う人が増え、地域活性化がはかれる。
整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	「ヒト」：キノコ公園で遊ぶ子ども達の保護者、保育園等の地域の学校組織の協力・青葉台1丁目及び隣接町の有志・地元企業の協力・AS輪組の協力（青葉区内学校トイレアート、建築家中野氏）・桐蔭学園トランジションセンター・NPOアフリカヘリテイジコミュニティ・地元農家 「モノ」：整備に必要な材料を安く入手できそう・整備に必要な建築機械を安く借りられそう（区内建設会社、農家、地主等に依頼） 「カネ」：・青葉台1丁目自治会から資金的な支援を得られそう。・クラウドファンディング、バザーなどで資金を集められそう。
運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	①災害時における協働：地震対策本部に登録されている20名の住民が主体となって、対策本部設置等に関わる。②外国人支援体制における協働：日本語講師、トニー氏（NPOアフリカヘリテイジコミュニティ代表）、地域の外国語学校等と連携し、外国人住民を対象とした日本語講座等を開催。③不登校児のケアにおける協働：高齢者、大学生、地域ボランティア等と連携し、不登校児童の学習支援を実施。④移動支援における協働：地元のリハビリ運営団体。移動支援を必要とする方のきのこハウスへの送迎を実施。⑤エネルギー教育：桐蔭学園トランジションセンターと連携し、きのこハウスにペロブスカイト太陽電池を設置。地元農家と連携し、食と農に関する講座を実施。⑥きのこハウス運営：始動時は、提案グループメンバーが中心を担うが、ボランティア募集などしスタッフを増員。将来はNPO組織等の設立を目指す。
その他提案について特にPRしたい点を記入してください。	*デザイン設計等はAS輪組の協力（一級建築士中野晶子氏、市内小中学校トイレをアート実績多数） *桐蔭学園トランジションセンター、桐蔭横浜大学宮坂研究室による環境教育、ペロブスカイト太陽電池等の実演、実証実験による普及啓発 *スプラス青葉台に隣接。地域企業や大学等との連携も期待できる

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

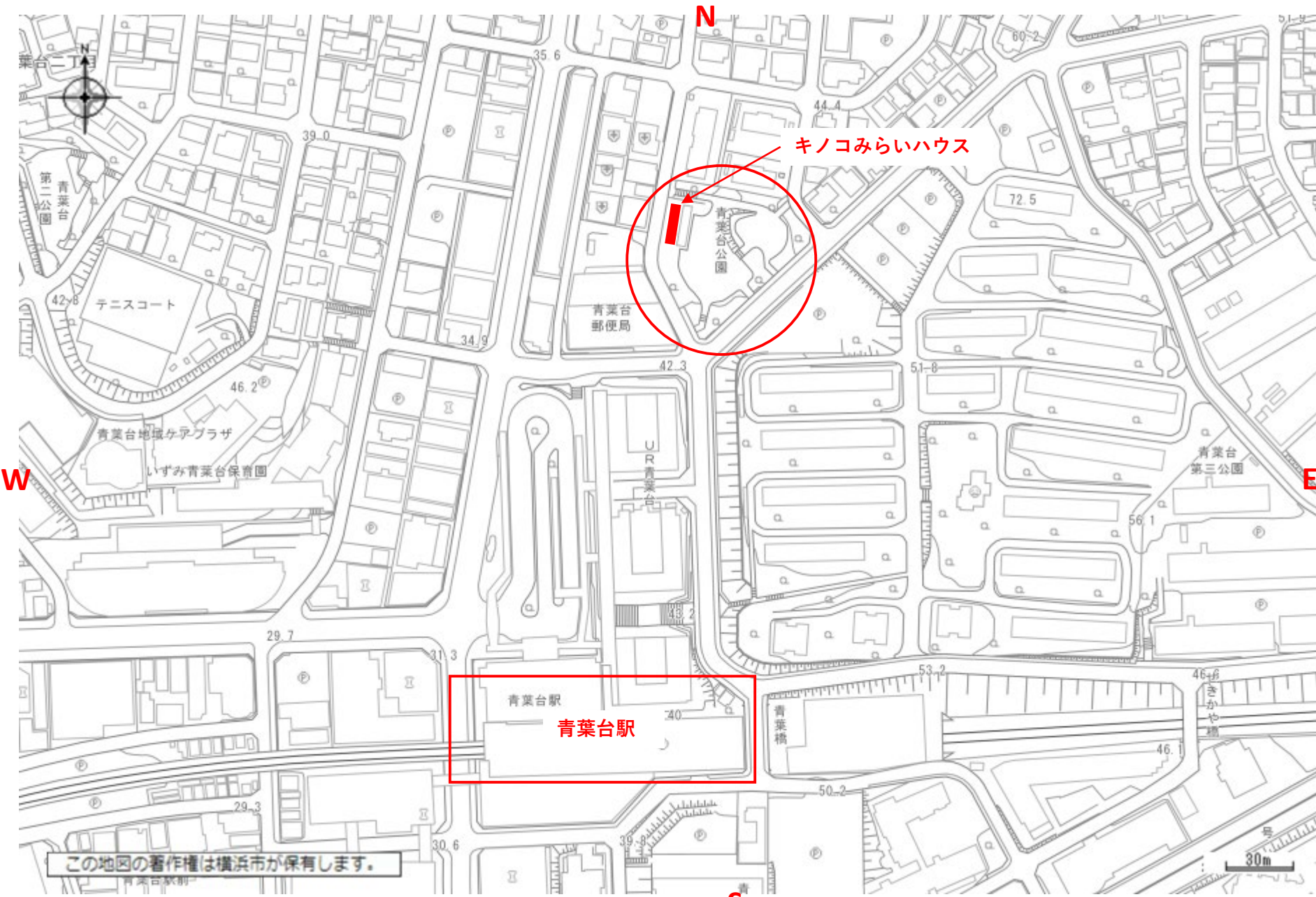
整備場所の地権者等注5）への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
青葉土木事務所	応募することを了解しました。 経過報告をお願いします。

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

青葉台公園位置図

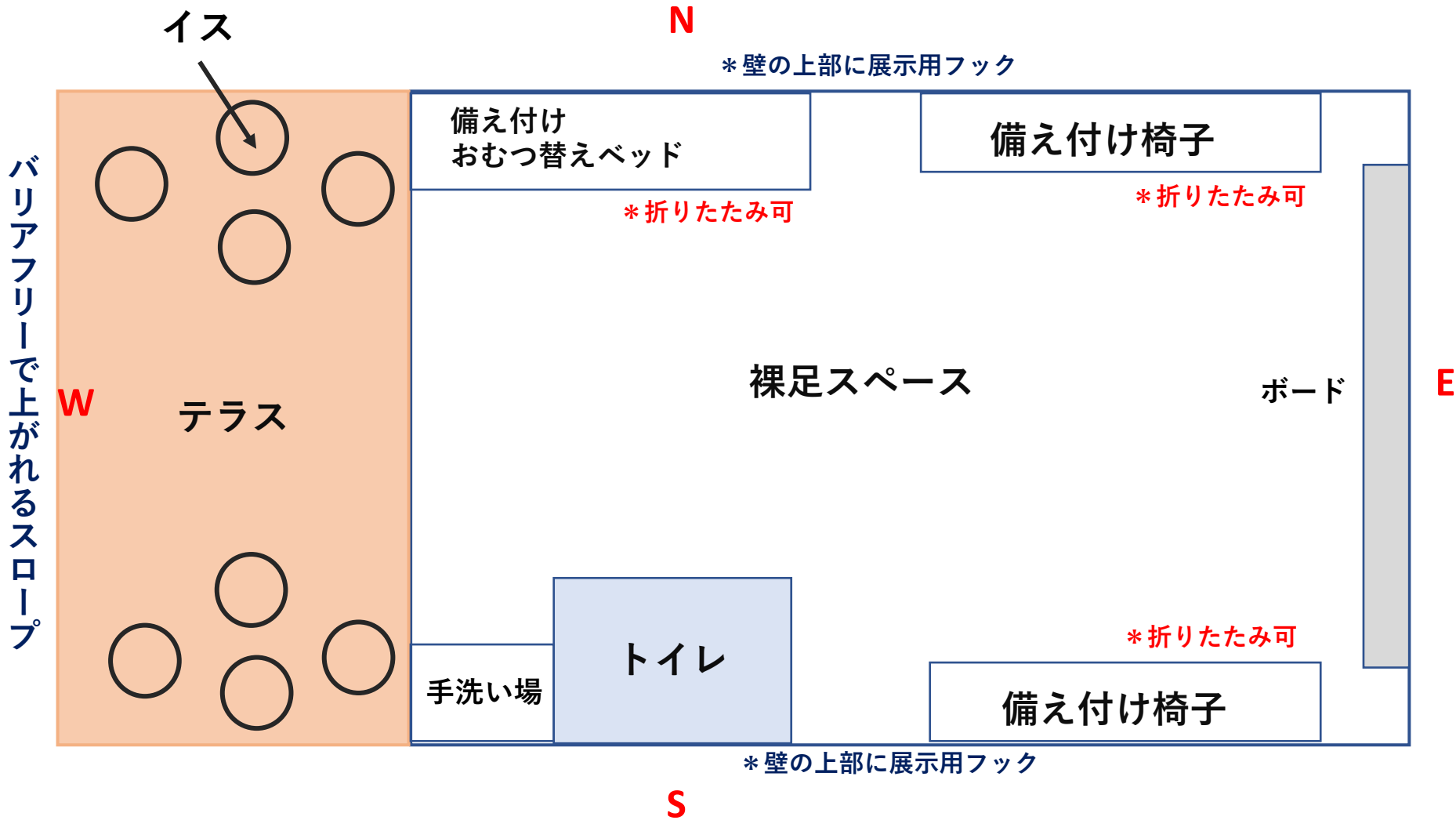


現況写真

裏側スペース



整備提案イメージ図



駐輪場建屋

ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	弘明寺リビングラボ
現在の主な活動 内容・活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ■ 令和1年5月に横浜総合高校にてキックオフイベントを開催 ■ コロナ禍で思う様に活動できない中、令和2年10月より大岡地区センターにて毎月「写経会」を開催 ■ 令和4年2月12日に早稲田大学先進理工学部教授による「時間栄養学」の講演会を開催すべく準備したが、緊急事態宣言発令によりやむを得ず中止
提案場所	南区 中島町4丁目
提案名 (25字以内)	データを活用したまちづくり
提案する施設（どのような施設の提案ですか）	<p>弘明寺商店街からほど近い木造2階建の1階（約50㎡）にある現在休業中のカフェを借りて整備したいと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 入口ドアを改修して間口を広げ、バリアフリー化を図る。 ■ 集会や小規模イベントを開催できる様に室内のレイアウト・内装を変更 ■ キッチンやトイレはそのまま使用可能 <p style="text-align: right;">整備費用の概算額：約500万円</p>
活用イメージ（提案する施設でどのようなことを行いますか）	<p>入口に「弘明寺コンセルジュ」の看板を掲げ、ヘルスケア（健康・医療）を中心に地域の様々な課題を解決するための活動拠点とします。具体的には以下のサービスを提供しようと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ まちのインフォメーション（案内や情報発信）としての機能 ■ 地域活性化のためのイベントやセミナーの企画、開催 ■ 健康サポートプログラムの提供（デジタルヘルス） <ul style="list-style-type: none"> ◇ データベースを構築して利用者の健康情報を収集分析し、きめ細やかなサービスを提供 ■ 食育をはじめ子育て支援のための各種プログラムの提供 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 子供の成長に合わせてメニューを開発し料理教室を開催 ◇ デジタル技術を使ったものづくりやお絵描き教室の開催 ■ フレイル予防・見守りサービス（デジタルヘルス） ■ 各種相談
提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地	<p>様々な知識、経験、スキルやアイデアを持ったシニアの力を地域の課題解決に活かさないかと考え弘明寺リビングラボを立ち上げました。子育て支援から在宅介護まで地域が抱える様々な課題を解決すべく地</p>

域の魅力等に触れて説明してください)	域住民と共にエコシステムの構築を目指したいと考えています。弘明寺には横浜で最古の弘明寺観音やかつて東洋一と言われた商店街があり、また横浜国大を中心に文教地区として発展してきた歴史や文化が今も色濃く残っています。若い世代にも積極的に参加を呼びかけ、弘明寺の新たな魅力を発信していければと思っています。
目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）	住民が地域に愛着と誇りを持って生活している街には活気があり、日本を訪れる外国人の目にもとても魅力的に映ることでしょう。弘明寺のインフラ（弘明寺観音、商店街、教育機関、アクセスの良さ等々）を最大限に活かしつつ一人ひとりの顔や個性が見える地位ネットワークを構築し、地域住民がお互いに協力し合い助け合いながらより安心安全で魅力的な街づくりを目指したいと思います。
整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 弘明寺リビングラボの運営委員会メンバー（約20名） ■ 弘明寺観音、弘明寺商店街、自治会、大岡地区センター、大岡地域ケアプラザ、近隣の学校、事業者（施設的设计施工等） ■ 大学関係者やIT企業 <ul style="list-style-type: none"> ◇ まちづくりのためのノウハウを持った研究者や情報を分析し活用するためのデータサイエンティスト ◇ 個人情報扱うための高いセキュリティ技術を持った企業
運営時の協働（運営するとき連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 弘明寺リビングラボの運営委員会メンバー及びサポーター ■ 医師、看護師、薬剤師といった医療従事者 ■ 料理研究家や栄養士といった飲食のプロ ■ 知識、経験、資格、スキル、様々なアイデアを持ったシニア ■ 大岡地区センター、大岡地域ケアプラザ及び学校 ■ 弘明寺観音、弘明寺商店街や近隣の店舗、銀行及び事業者 ■ 横浜市大附属病院地域連携室 ■ 横浜市大データサイエンス学部ヘルスデータサイエンス専攻 ■ 早稲田大学総合研究機構「医学を基礎とするまちづくり研究所」
その他提案について特にPRしたい点を記入してください。	まちに開かれた「コンサルジュ」を窓口として地域が抱える様々な課題や問題を抽出、分析して、サポーターの皆さんと一緒に解決策を見出していきたいと思っています。まずは、子育て世代や高齢者を対象に、一方が他方に依存するのではなく地域住民同士が互いに持ちつ持たれつしながら支援の輪を広げていきたいと考えています。

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

整備場所の地権者等注5）への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
建物所有者	ご家族を通じて説明済み

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

記載内容は真実であり、虚偽はありません。

記載内容に個人情報は含まれていません。

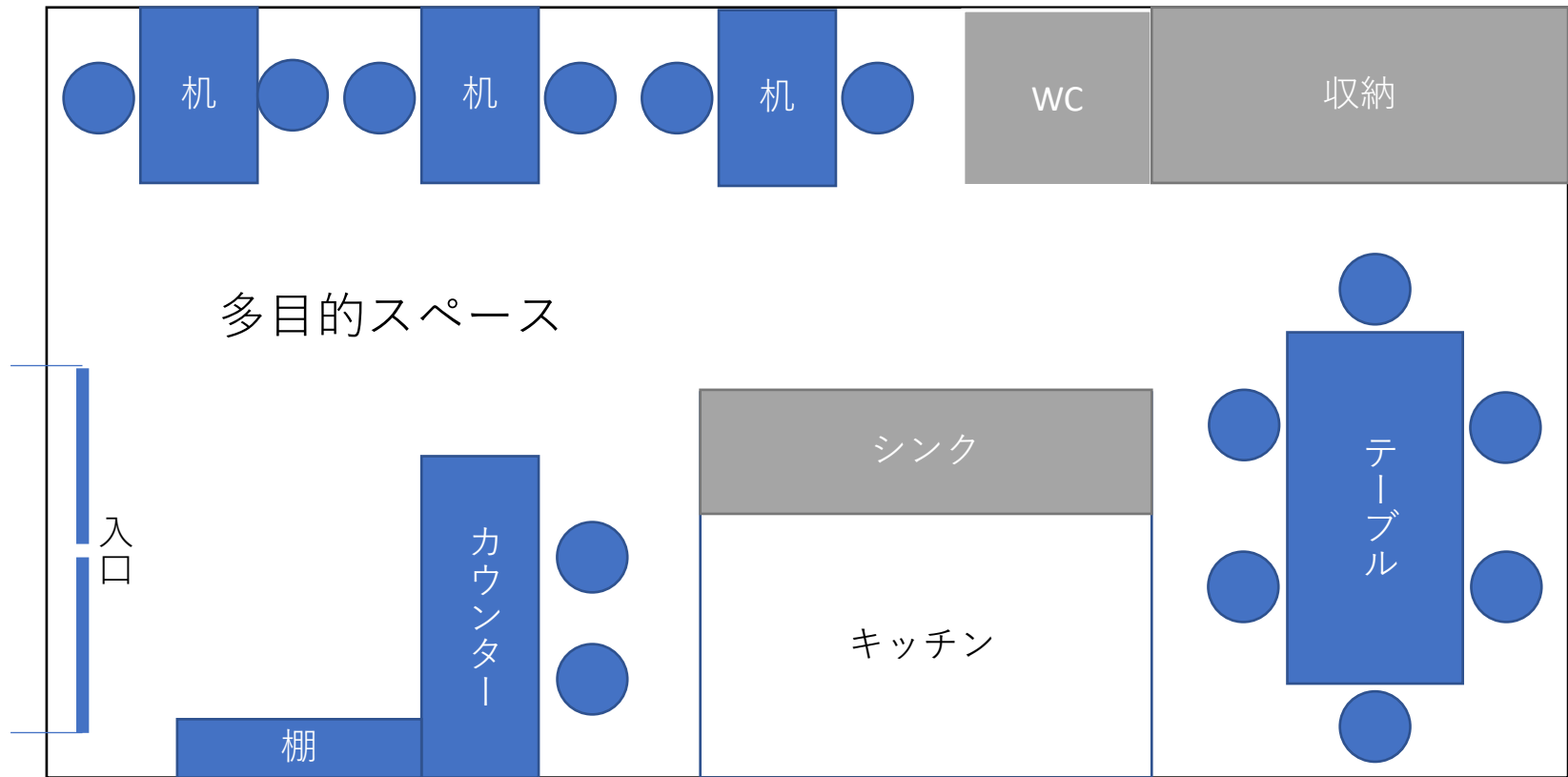
位置図 南区中島町4丁目



現況写真 南区中島町4丁目



活用イメージ図（基本レイアウト）



ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	KSG master (ケーエスジーマスター)
現在の主な活動内容・活動実績	18年前、共進中学校個別支援学級卒業生の、自分の感性を自由に表現できる織物「さをり」を、卒業後も続けたいという声を受け、フォーラム横浜の生活工房を借りて織りの活動を始めた。障がいを持った方に限らず、余暇や自分を表現する場を持つことは重要で、今では卒業生以外の方も参加されるようになっている。織った作品をフォーラムまつりなどで販売したり、その売り上げの一部を東日本大震災やその後も続く自然災害への支援としてきた。作品を披露したり販売したりする機会は限られているので、今後、活動の拠点を作りたいと考えている。併せて、誰もが集える居場所づくりをしたいと考えている。
提案場所	南区 南太田・1丁目
提案名 (25字以内)	誰もが百点満点！自分らしさを表現できる居場所作り
提案する施設（どのような施設の提案ですか）	商店街の空き店舗を借りて次の改修整備を行う。 ○「さをり」を行う工房の整備○ギャラリーとして使用するための壁面・照明の整備○多目的に使用するための可動式間仕切りの設置○小箱ショップのような棚設置○カフェが出来るミニキッチンの整備○グループで調理を行うことができる調理台の設置○くつろげる空間として畳の間の設置○入口にスロープを設置○車椅子利用可能な多目的トイレの設置○中の様子が外からわかるような大きなガラス窓の設置○内装には国産木材や自然素材を使う <u>整備費用の概算額：約500万円</u>
活用イメージ（提案する施設でどのようなことを行いますか）	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの感性を自由に表現できる織物「さをり」の織り体験やその作品の発表・販売を行う。 ・地域のクリエイターの方の作品発表・販売の場を提供する。 ・ものづくりやアート活動のワークショップを行う。 ・障がいのあるなしにかかわらず誰もが集える居場所とする。例えば、メンバーの中心は中学校個別支援学級の卒業生なので、障がいの当事者あるいは親や近くで関わってきたものが多く、子育て時に不安なことを相談したり、子どもと一緒に気兼ねなく過ごせる場とする。 ・高齢者や車いす利用者の方も気軽に訪れ、アートや創作活動、レクレーション、ワークショップなどを楽しんだりできるようにする。 ・小学生や、中高生などを対象に、みそづくりや簡単な調理など生活力を着けるワークショップを行う。 ・特別支援学校生やその卒業生が、気楽に集える居場所にする。 ・内装を、国産材や自然素材を使ったり、カフェで使う材料を吟味して、化学物質過敏症やアレルギーのある人も安心して利用できるようにする。 ・畳の間を設置し、くつろげる場とする。
提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課	・「さをり」の作品がたくさん生まれているが、それを披露したり販売する機会が少ない。地域にもアーティストやクリエイターがいて、発表の機会を持ちたいと思っている人がいると思うので、表現する場を作りたい。

題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください)	<ul style="list-style-type: none"> ・提案する地区はドンドン商店会の中にあり、昔は50店舗以上のお店が加盟しにぎわっていた。しかし閉店するお店も多く、現在では10店舗ほどとなっている。 ・アートの発信や自分らしく過ごせる居場所づくりすることで、この地域に住む方たちだけでなく、他地域の方たちも呼び込み、この地域を活性化したい。
目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）	<ul style="list-style-type: none"> ・「さをり」は一人ひとりの感性を自由に表現することができるアートである。アート作品の発表（お店だけでなくインターネットでも発表）により、ドンドン商店会に他地域からの来訪者を呼び入れ、地域を活性化したい。 ・誰でも集える場をつくることで、障がいのある人も、ない人も、高齢者も小さいお子さんを抱えている人も、小学生、中・高生などの学生さんも世代を超えたつながりを持つことができる温かい太田地区を作りたい。
整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	<ul style="list-style-type: none"> ・ドンドン商店会のいろいろな事業所と連携したり相談したりして、事業費削減を図る。 ・準備期間に、ドンドン商店会のイベントに計画段階から参加協力し、この地域に居場所づくりをすることを周知する。 ・NPO法人の立ち上げを準備しており、この事業に賛同し、一緒に協働してくれる人を広く募集する。
運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	<ul style="list-style-type: none"> ・現在活動しているメンバー以外も声をかけ、個別支援学級卒業生や親御さんをただ参加するだけでなく運営側に入って活動してもらうようにする。 ・展示や販売をしたい（小箱ショップに出店したい）という人も場所借りだけでなく店番など店のスタッフに入ってもらうようにする。 ・ドンドン商店会に加入し、縁日やイベントを協働して行う。 ・男女共同参画センター横浜南（フォーラム南太田）での、働きづらさに悩むガールズサポートと連携して、店のスタッフに入ってもらうようにする。 ・小中学校の個別支援学級と連携し、職場体験の機会を提供する。
その他提案について特にPRしたい点を記入してください。	<p>「さをり」という織物は、自分の好き好きに織ることができる自由な織物です。こうしなければならぬということもなく間違いはありません。誰もが百点満点！なのです。この「さをり」の哲学をベースに、様々な人が自分らしさを自由に表現し、お互いを認め合える居心地の良い居場所づくりをしたいと思います。</p>

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

整備場所の地権者等注5）への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
土地・建物の所有者	提案応募することは承諾しました。

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

都市計画基本図



整備予定場所
南区南太田一丁目

南太田駅

位置図



外観写真1



外観写真2



内観写真1

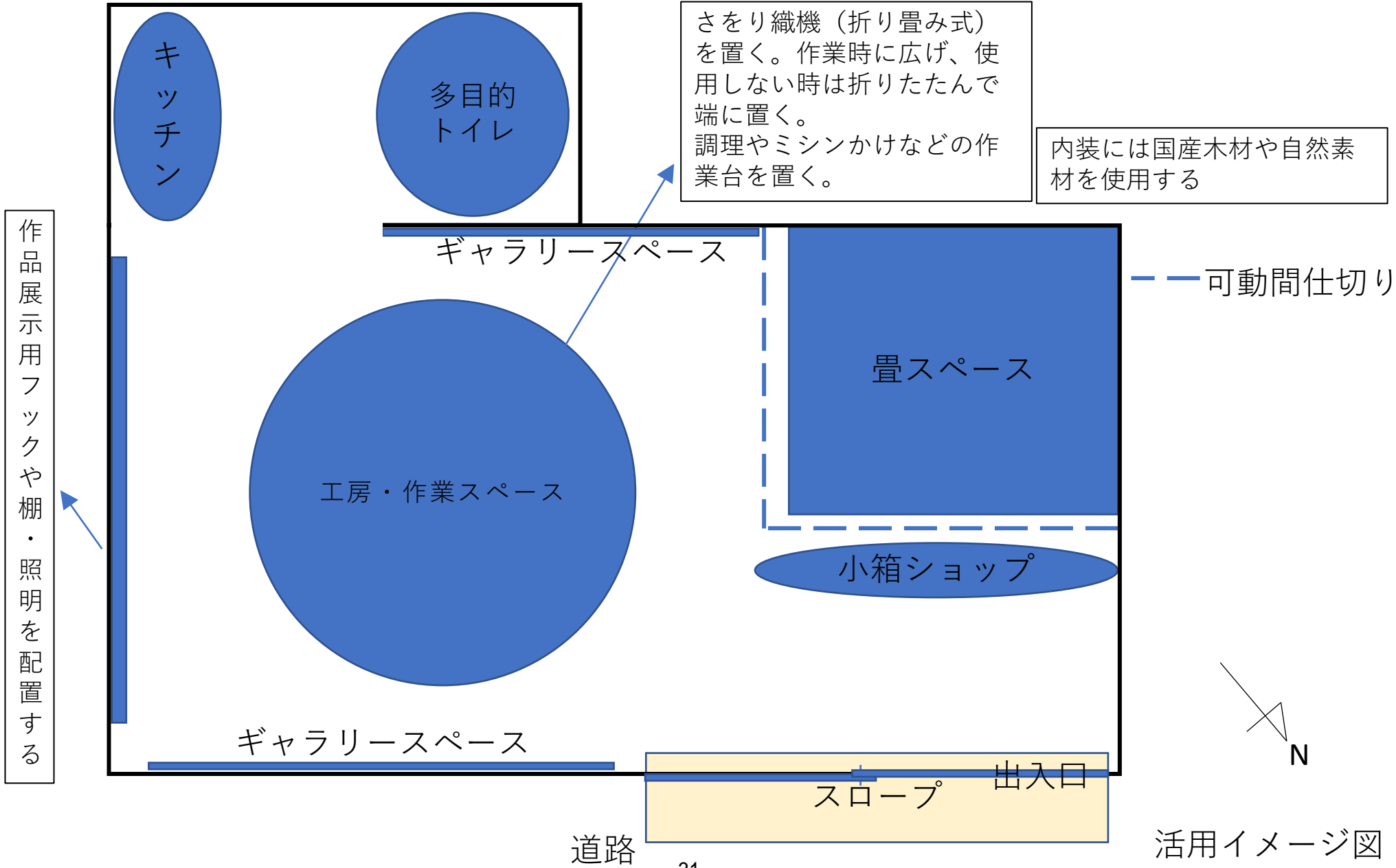


内観写真2



内観写真3

現況写真





KSG



KSG は、横浜市立中学校の個別支援学級卒業生を中心とする、「さをり」グループです。横浜市フォーラム（男女共同参画センター）に毎月1回程度集まって楽しく織っています。年に1回フォーラム祭りやギャラリー *nana* で展示販売しています。



✕フォーラムまつり



KSG のメンバー“理彩さん”“彰人さん”“佑太郎さん”は、My織りネームを持っている作家さんです。



ヨコハマ市民まち普請事業 第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	えだきん×夢叶きゃらばん
現在の主な活動内容・活動実績	商店街主催イベント年4回、パリジェンヌ主催イベント月1回、スマホ講座週2回、えだきんアイドル“EDK”育成&ゆるキャラ“えだきんぎょ”製作し区内イベント中心に出演。
提案場所	都筑区 荏田南5丁目
提案名 (25字以内)	リアルとバーチャルで夢を応援えだきんメタワールド
提案する施設（どのような施設の提案ですか）	<p>1 青空テラス（カフェや教室開催） 現在パリジェンヌ（パン屋）の店先の古いテラスを、お一人でも気軽に寛げる設計にする。席数を増やし教室が開催できる様に収容人数も増やす。</p> <p>2 いつでもステージ（発表の場） テラスの一部を収納型ステージにして、挑戦へのハードルを下げ夢を応援！</p> <p>3 リアルとバーチャルを繋ぐシャッター シャッターにはバーチャルへの入り口となるQRコードを描く。 整備費用の概算額：約500万円</p>
活用イメージ（提案する施設でどのようなことを行いますか）	<p>1 誰もがふらりと立ち寄れる憩いの場（サードプレイス）。 また、講座会場やコワーキングスペースとしても解放する。 活動の発信と交流を促す場として活用する。</p> <p>2 自分の特技や新たな挑戦が、手軽に披露実演できる。 活動の発表やイベント時のステージとして活用する。</p> <p>3 シャッターの降りている店舗や閉店後もバーチャル空間へ繋がる入口となる「QRコード」を描くことで、見えない世界を身近に感じる。</p>
提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください）	<p>引きこもり気味の小中高生から高齢者など、外への繋がりを持ちたくてもハードルを感じる人がいる。人前で何かをいきなりやるにはハードルが高い。一方、バーチャルは、何度でも失敗でき挑戦できるので、ハードルが低い。でもバーチャルだけではまだ生きていけない。そこで、バーチャルとリアルを繋ぐ、中継点として「安心」して、近隣の小中高生からシニアまで、学べて体験できる「中間支援的な空間」をつくる。</p> <p>その為に必要なのが「えだきんメタワールド」。お仕事体験や学習支援、ステージ発表などを「疑似体験」できる。そこで得た通貨はリアルのえだきん商店街で使用できることで、相乗効果を生み出す。結果的に商店街の活性化にもつながる。</p> <p>シャッターにはQRコードが描かれ、バーチャル空間に日常的に参加できる。青空テラスでは、教室を開催し、アプリや電子機器を扱える人そのものを増やす。提案施設があることで、リアルとバーチャルを双方向から繋ぐシカケが生まれる。</p> <p>子どもが使い終わった自転車等おもちゃが自然と集まり、それを使いたい親子が自然と集まってくる。ここで自転車に乗れるようになった子どもは数知れず！放課後には、小中学生のたまり場となり、課題やゲーム、談笑を楽しんでいる。この場を地域の子どもからシニアまで必要としている。まち普請で更に安全に快適に過ごせる居場所として整備したい。</p>

<p>目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）</p>	<p>地域に生まれ、育ち、安心して地域で老後を過ごすことのできる場所。「ゆりかご」から「墓場」まで安心して住み続けられる居場所・まち作りを目指す。商店街を中心に、誰もが@「バーチャル」でも「リアル」でも、「小さな成功体験」をたくさん積める場所をつくることで</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 失敗を恐れず挑戦できる 2 失敗した時に受容しあえる 3 失敗や壁を乗り越えられる術が身につく <p>これらを体験から学べる場所にしたい。</p> <p>将来的には、地域基金を作ること、例えば、地域で行われている活動に住民が投票で支援先を決めるような『地域独自の基金』を設立し、地域で支えあって生きていく社会を目指したい。</p>
<p>整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）</p>	<p>キックオフメンバーを募集し、得意分野に分かれ、整備時の設計、資材搬入、連絡係などそれぞれ協力体制を作る。</p> <p>【近隣住民、学童、他団体からのボランティア】</p> <p>商店街の各商店と地域住民。実行部隊として、学童や横浜市一時預かり事業の利用親子。他団体から、整備に関わる事例や情報、企業から、整備資金の支援を受ける。協働先団体に、建築設計・まちづくりの専門家がいるため、整備を進める中で、随時助言・支援を受けることができる。</p>
<p>運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 キックオフメンバー イベントや祭りを企画開催し「商店街コミュニティ」を担っていく。 2 スマホ講座参加のシニア 地域のデジタル化を広げる時に主となるメンバーであり、老後の生活負担軽減を考え「ずっと暮らし続けるまちづくり」を協働。未参加のシニア層に向けた情報発信をした結果、口コミでの参加が増えている。 3 SDGsの取り組みとして、食品ロスや廃棄課題を抱えた、商店街各店や近隣農家の「地域で食品ロスを循環していく地産地消」や「廃棄課題を解決するエコステーション」を協働開発、運営し継続できる仕組みを作る
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入してください。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 これからの商店街のあり方として、体験やバーチャル空間も合わせた、多世代がリアルとバーチャルで交流できるサードプレイスとなることだが、地域や商店街の活性化の糸口となる。 2 地域には、たくさんのスキルや経験を持った人がいるが活用できてない現状がある。また寄付をしてもきちんと目的のために使われているのかわからない現状に寄付がしづらいという声もある。 3 体験や多世代交流から、好きなもの・夢中になれるものに出会う機会を得ることで、「自分らしさ」や「夢」を発掘でき、新たな価値が創出される。年齢問わずICTへの理解を深めるきっかけとなり、地域資源を繋ぐことで、必要な人に必要な資源を、安心安全に届けることができるハブとなる拠点を整備し、誰もが笑って過ごせるまちづくりに寄与する。

注4) 「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

整備場所の地権者等注5)への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
土地建物所有者	一昨年から引き続き説明をしています 立ち退く際、原状回復してくれれば特に問題ありませんとのことでした

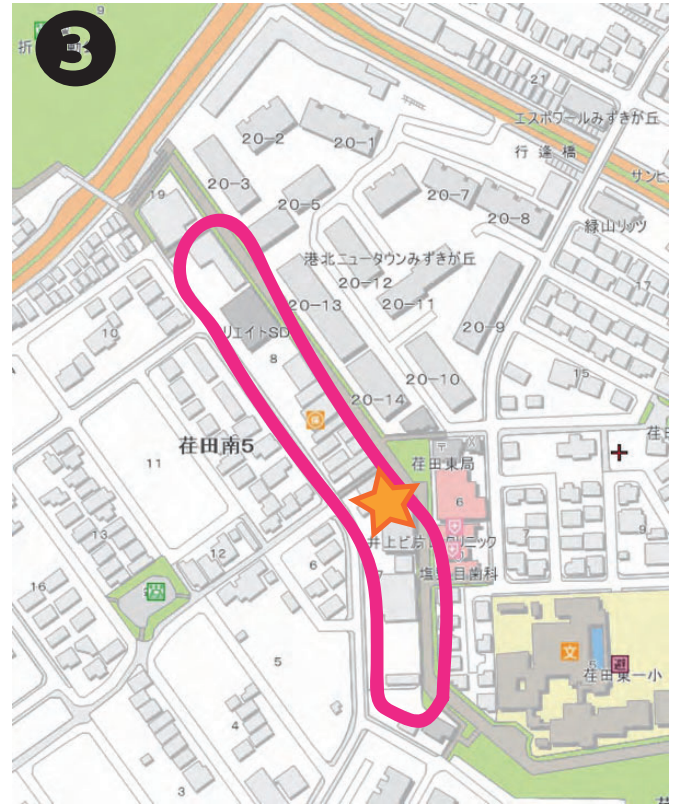
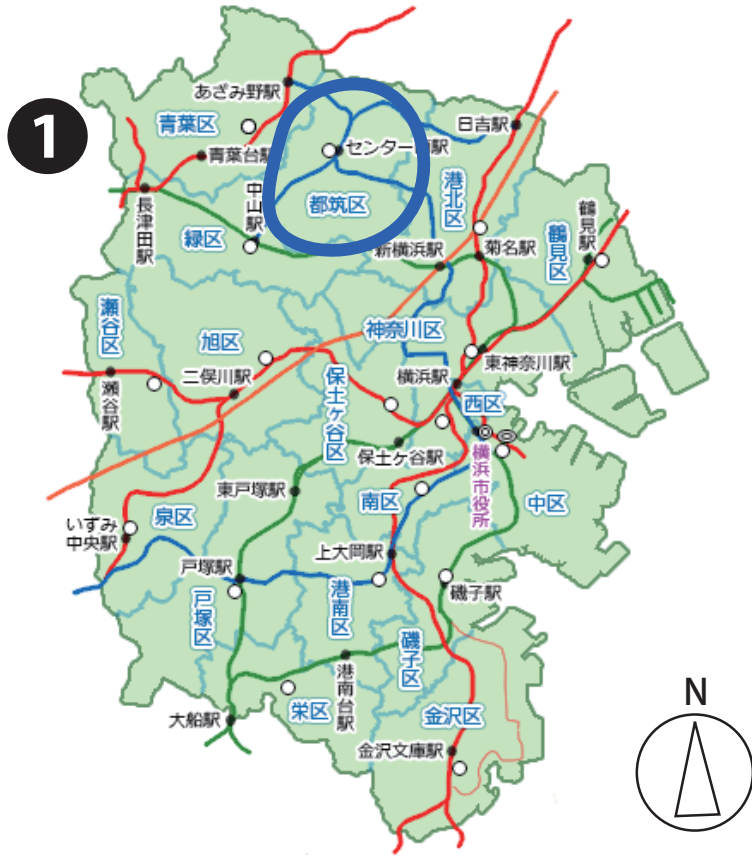
注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

えだきん商店街の位置図

- ①「都筑区」は、横浜18区の中の北部に位置し、「青葉区」「緑区」「港北区」に隣接する
- ②「センター南駅」から、遊歩道を通り、徒歩約20分程の場所にある
(都筑ふれあいの丘駅から、徒歩約18分。江田駅から、徒歩約23分)
- ③「えだきん商店街」は、遊歩道に繋がるレンガ道で、四季折々の花が彩る都筑区最古の商店街



◆現状写真



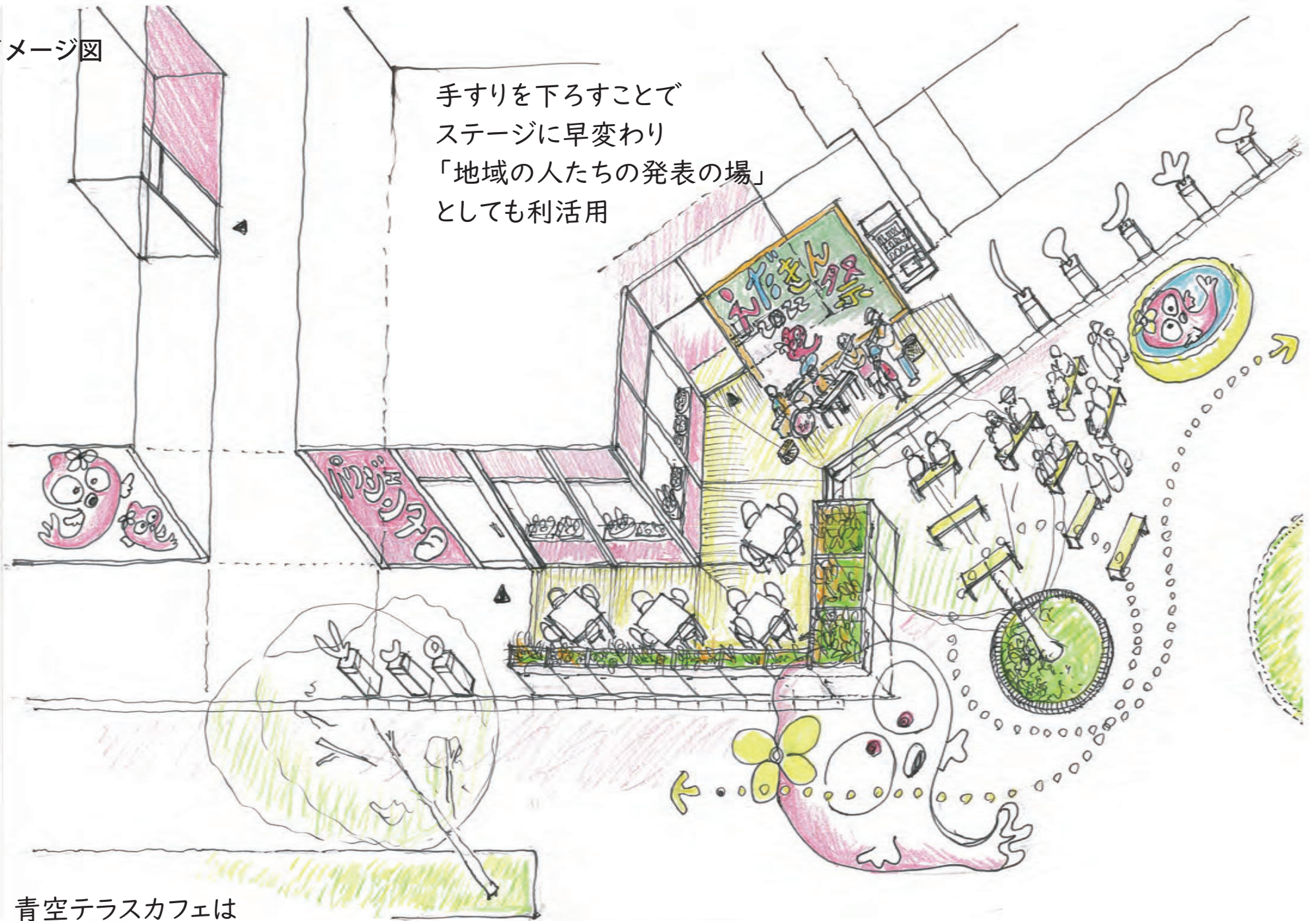
えだきん名物：しだれ桜とサクラソウ
※さくらそうは、都筑区の花 36



テラスからの風景は緑豊か

活用イメージ図

手すりを下ろすことで
ステージに早変わり
「地域の人たちの発表の場」
としても利活用



青空テラスカフェは

誰でもふらりと立ち寄り自由に交流できる。

毎月ミニ講座や催し物を開催し、地域情報発信。 37

モニュメントやシャッターアートで

花の彩りと相まって、えだきんの新名所に。

えだきんパリジェンヌ前のテラスの現状

◆放課後は、小中高生のたまり場に。彼らに何してるのか聞いたら
「なんとなくここにきて、しゃべったり、ゲームしたり、宿題やったり、パン食べたり」
「僕は、小さな子がいたら、ボールで遊ぶことはしません」とのこと。
適度に、地域の人の監視の目があることで、社会のルールを学ぶ機会にもなっているようです。



ここが綺麗になったらどうする?と聞いたら、「毎日来ます!」と笑顔で即決してくれた、近隣の中学生。
ずっとずっと、子どもたちが安心して集まれる場でありたいと、強く思いました

◆月1回行っている、「パリジェンヌパン対決」の様子



◆老朽化により「小さなお子さん」には、やや安全性が心配になりつつある。

現在は、アウトドア用のテーブルを4台並べただけの簡易的なテラスとなっている。
このテーブルも老朽化により、反り返っていて「ペンが転がってしまう」こともある。



ヨコハマ市民まち普請事業 第1次提案書

- 注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。
 注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。
 注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	HOMMOKUもくりプロジェクト実行委員会
現在の主な活動 内容・活動実績	コミュニティスペース、畑(農作業体験、野菜作り他)・食育・園芸、みんなの(子ども)食堂、高齢者の憩いの場、趣味の共有の場(手芸部、書道部など)、放課後の小学生の利用、料理教室、防災講座の開催ほか
提案場所	中区 本牧満坂
提案名 (25字以内)	HOMMOKUもくりプロジェクト
提案する施設 (どのような施設の提案ですか)	<p>リトルファームHOMMOKUもくりは、築80年を越える古民家(空き家)を再生して活動している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外との交流の生まれるキッチン・カウンターの整備 ただの通り道となっている建物北側部分を地域の人たちが立ち寄りやすい、立ち寄ってみたいくなる空間に。さまざまな目的でのキッチンの利用に対応できるように整備する。 2. 外構整備 農作業にいろいろな人が参加できるように作業場の整備(敷石、バリアフリー化)。収穫した作物などの加工・保存ができる貯蔵庫を設置。 3. 昔ながらの体験ができる施設の整備 昭和初期の家屋の雰囲気を経験できる施設なので、新たに古井戸の活用。かまどの整備。雨水タンクの設置などすることで、簡単便利な現代の生活を見直し、防災講座などが開催できる。 4. 雨水・污水溝の整備 利用が増えることで不備が生じないように、雨天時の庭の水溜り解消のため雨水排水溝の整備と、トイレの詰まり防止の污水排水溝を整備。 整備費用の概算額：約500万円
活用イメージ (提案する施設で どのようなことを 行いますか)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人による料理教室や、カフェの日やランチの日などバリエーションに富んだ楽しみ方ができるようにすることで、多くの人が訪れ、出会いや繋がりのきっかけを作る(茶飲み友達、ご近所付き合い、顔見知り)場になる。 ・畑を通して、農業体験や保存食(発酵食品)作りで交流を深める場としていく。また、収穫した野菜やハーブを使っての料理教室の開催、こども食堂のメニューに取り入れるなど食育に繋げていく。 ・井戸やかまどを設置することで、災害時に役立つ防災クッキングも実施する。 ・共通の趣味をもつ人たちの集える場としても開いていく。(染色、木工作業など)
提案の背景(なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください)	<p>今までの活動で、利用者や地域の方から「入り口がわかりづらい」「何をやっているのか(できるのか)がわからないので入りづらい」という声が多かった。そしてこの地域は住宅街で、公園、コンビニ、食事をするところ、休憩するところがないため、気軽に交流ができていく地域。家の建て替えが進んで新しい若い世代が増えている地域。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 孤立しやすい独居老人、高齢者、外国籍の方が多くいる地域なので少しでも地域に溶け込めるきっかけとなる場所。拠り所となる場所としたい。 2. 湧き水が豊富な地域であることから、古井戸を整備して活用できることを広めたい。 3. 中区内に畑があることが珍しいので、畑を通して食育や環境について考えるきっかけを作っていきたい。

<p>目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）</p>	<p>地域の人たちが、ゆるやかに繋がっていて、いざという時支え合える関係ができています。</p> <p>1【コミュニケーション】（高齢者、未就学子育て世代、外国籍の人など） 多世代交流と孤立させないし顔の見える関係性を築いていける地域。</p> <p>2【防災】日頃より、危機管理意識を持っていて、隣近所と助け合えるような地域。</p> <p>3【環境】循環型の畑にすることで環境に配慮していけるような地域（自然を大切に。自然エネルギーの活用。生ごみのリサイクルなど）</p> <p>4【健康】未病、認知症などの予防をしていくことで心身共に健康な人がたくさんいる地域。（旬の野菜、みんなで食べる、自然を感じるなどを通して）</p>
<p>整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・整備に必要な人材（DIY、チラシづくり、図面おこしなど）が地域で確保できる。 ・道具や材料（廃材、リユース・リメイク品）などを地域で確保できる。 ・建築の専門家に相談アドバイスを受けることができる。
<p>運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）</p>	<p>全体の運営は今まで通り運営委員会が担う。</p> <p>1.キッチン^{の活用} みんなの食堂（子ども食堂）や、おやつタイム（年齢に関係なく参加できるおしゃべり場。絵本の読み聞かせや紙芝居など）、お茶会、ピザ作り、旬の野菜を使った食事会など利用したい人がいる。</p> <p>2.講座・教室^{の運営} 趣味や特技の共有（そば打ちの技術や、お菓子作り、リース作り、習字、手芸など）がすでになされている。発酵食品作りや、染色も希望する人がいる。防災講座の開催などは生活クラブ生協と協働。地域ケアプラザ、民生委員、町内会などと連携して、高齢者を中心にした集まりに、未病、認知症等の予防を目的とした講座を開催する。</p> <p>3.畑^{の運営} ボランティアで畑をやりたい、体験をしたい親子や大人が確保出来ている。近隣の小学校、幼稚園などとのネットワークもできている。 また、ワーカーズ・コレクティブ協会を通じて横浜市就労準備支援事業として運営スタッフの受け入れを行う。</p>
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入してください。</p>	<p>「もくり」のある場所は街なかの住宅地で、誰でも歩いて行ける自然体験の出来る場所です。緑の山に囲まれ、四季を感じながら広い庭で作物や花を無農薬で育てています。そうやって大切に育ててきた野菜を、調理して食べることで環境保全や食育を学べる場所にしていきたいのです。 これからももっともっとオープンにして年齢性別に関わらず幅広くより多くの人が利用しやすく気軽に立ち寄れる居心地の良い場所を目指します。</p>

注4）「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

整備場所の地権者等注5）への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
所有者	家の持つ良さを活かして、より多くの地域の人たちが集える場所にしてほしい。

注5）土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

位置図





エントランスの細道



スリム
3R 夢農園の看板

リトルファーム
HOMMOKU
もぐり
現況の写真

台所の下にある古井戸



キッチンの外壁



元浴室の窓からキッチンへの外壁



キッチン内部

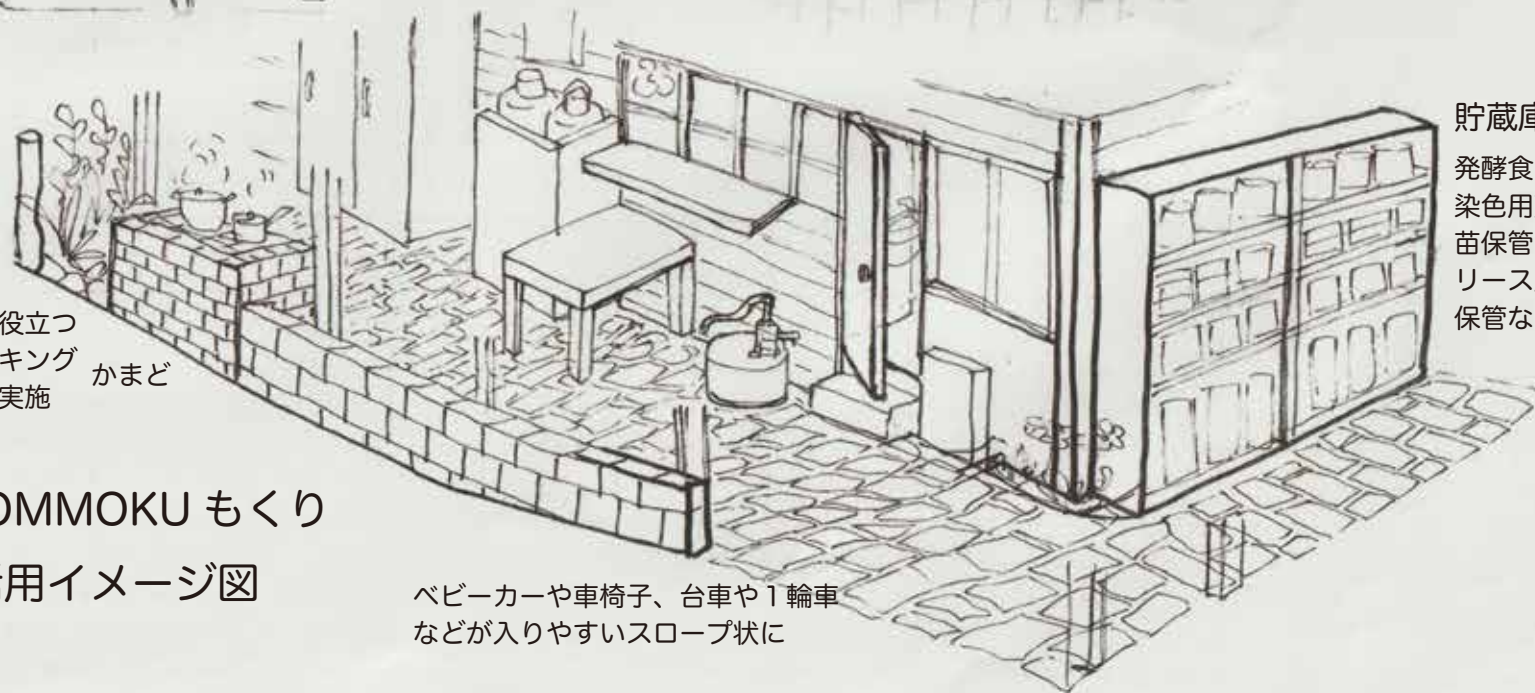
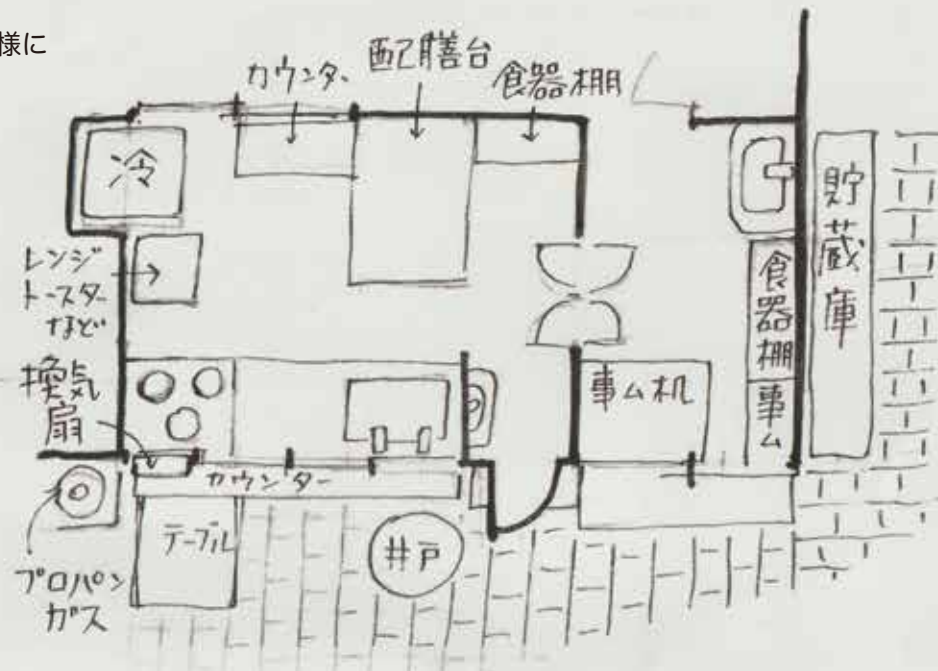
北側

東側





キッチンカフェ仕様に



災害時に役立つ
ポリッキング かまど
講座など実施

貯蔵庫
発酵食品
染色用藍保管
苗保管
リース用ツル
保管など

リトルファーム HOMMOKU もくり
活用イメージ図

ベビーカーや車椅子、台車や1輪車
などが入りやすいスロープ状に

これまでのもくり



雑草だらけの庭

築 80 年以上 10 年間空き家だった家屋を整備



畑作り



夕涼み会



収穫



蕎麦うち講習会



子どももそばが大好き



手作り縁台で日向ぼっこしながらの食事



春の花壇



みんなでピザ作り



ダンボールハウスも手作り

メールマガジン「ヨコハマ 人・まち」を読みませんか？

市民が身近なまちづくりに取り組むときに役立つ制度や用語、地域のまちづくり活動の紹介、地域まちづくりに関するイベントや講座等に関するお知らせなどを提供する、無料のメールマガジンを読みませんか？ 配信申し込みは、下記の2次元コードからお願いします。



ヨコハマ 人・まち

メルマガ案内

ヨコハマ人・まち

検索



地域まちづくり課 “公認” のFacebook

「ヨコハマ市民まち普請ひろば」

まち普請ひろば

検索

Facebookに登録していなくても誰でも見られます。

既にFacebookに登録されている方は、是非「いいね！」を宜しくお願いします。

(Facebookは協働事務局の横浜市住宅供給公社が運営しています)

身近なまちの課題を解決したい、あるいは魅力を高めたいと考えている方や、身近なまちの施設等の整備アイデアをお持ちの方は、年間を通じていつでも相談窓口を開設していますので、どうぞお気軽にご相談ください。

【相談・お問い合わせ先】

横浜市都市整備局地域まちづくり課

(横浜市中区本町6丁目50番地の10 市庁舎29階)

電話 045-671-2679 E-mail : tb-seibiteian@city.yokohama.jp



まち普請

検索



令和5年度ヨコハマ市民まち普請事業 応援企業のみなさま



まち普請事業は、市民主体のまちづくりの支援を通じてSDGsの目標達成を目指す事業です。SDGs推進に精力的に取り組む以下の企業の皆様からの応援をいただいています。



各企業の
HPリンクは
こちら
(横浜市 HP)

